

歯冠補綴学

責任者名：小峰 太(歯科補綴学Ⅲ 准教授)

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

小峰 太(歯科補綴学Ⅲ 教授)

本田 順一(歯科補綴学Ⅲ 助教)

平場 晴斗(歯科補綴学Ⅲ 助教)

窪地 慶(歯科補綴学Ⅲ 助教)

◆一般目標 (GIO)

歯質欠損の診断と、歯冠修復治療による機能回復と維持のために必要な知識を身につける。

歯冠補綴学の基礎知識および歯科補綴学用語を理解する。

◆到達目標 (SBOs)

歯質欠損に対する歯冠修復治療の臨床的意義と方法を理解し、説明できる。

クラウンブリッジによる治療について説明できる。

歯科補綴学用語の基礎知識を解釈できる。

◆評価方法

定期試験結果 (50%)、対面平常試験① (10月24日、月曜日) および対面平常試験② (11月21日、月曜日) の結果 (40%)、小テストおよび提出物 (10%) とし、総合的に評価する。

平常試験に関する内容は講義時間内にフィードバックを行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
小峰 太	月曜日 (実習日の4時限前後) 第4, 5実習室 (実習日) 講義終了後随時 (遠隔)	komine.futoshi@nihon-u.ac.jp	
本田 順一	月曜日 (実習日の4時限前後) 第4, 5実習室 (実習日) 講義終了後随時 (遠隔)	honda.junichi@nihon-u.ac.jp	
平場 晴斗	月曜日 (実習日の4時限前後) 第4, 5実習室 (実習日) 講義終了後随時 (遠隔)	hiraba.haruto@nihon-u.ac.jp	

窪地 慶	月曜日（実習日の4時限前後） 第4，5実習室（実習日） 講義終了後随時（遠隔）	kubochi.kei@nihon-u.ac.jp	
------	---	---------------------------	--

◆授業の方法

遠隔授業

指定教科書の内容を基本として制作されたスライド pdf を投影し、講義を行う。

受講者に対し、スライドの内容を反映した資料 pdf を配付する。

教科書に掲載されていない図表等は配付資料に掲載し、講義時間内に解説を行う。

学期内に平常試験を行う。平常試験については、受講者の理解を深めるため、時間内に解説を加える。

【実務経験】小峰 太，本田順一，平場晴斗，窪地 慶：日本大学歯学部附属歯科病院クラウン・ブリッジ科で歯科診療を担当している立場から、本教科で学修する知識や臨床術式が実際の臨床でどのように活かされるかについて説明を加える。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	冠橋義歯補綴学テキスト第4版	石神 元，松村英雄，小峰 太，他	永末書店	2021
プリント配付				

◆DP・CP

DP3

コンピテンス：倫理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5：

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見い出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

CP3：幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4：歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP5：研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

教科書による予習を行い、当日の学修到達目標を理解すること。

授業中は、配付プリント、ノート等に必要事項を記載し、自身の学修に必要なノートを作成すること。

作成したノートをもとに復習を行うこと。

◆準備学習時間

授業時間（50分）相当を予習（50分）および復習（50分）に充てること。

◆全学年を通しての関連教科

歯冠補綴学実習（3年後期）

架橋義歯補綴学（4年前期）

架橋義歯補綴学実習（4年前期）

固定性義歯補綴学（4年後期）

専門総合特別講義 III（インプラント）（4年後期）

顎機能分析演習（4年後期）

臨床実習（5年前期，後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		8.30	1	【遠隔】 歯科補綴学とクラウンブリッジによる補綴処置 (教) pp.1-7	・歯科補綴学の分野，クラウンブリッジによる補綴，歯質欠損について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
2		8.30	2	【遠隔】 クラウンの種類 (教) pp.1-8, 12-18	・クラウンの種類と具備すべき条件について，具体例を通じて理解し，説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
3		9.6	1	【遠隔】 支台歯の形態 (教) pp.17-18, 20-24	・支台歯の形態，全部金属冠の支台歯形成，軟組織の保護について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
4		9.6	2	【遠隔】 支台歯形成 (教) pp.20-24	・切削，形成機器，切削工具と表面粗さ，形成前処置について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
5		9.13	1	【遠隔】 形成後の処置，直接修復と間接修復 (教) pp.24-25	・形成後の歯面処理，歯冠修復における直接法と間接法の相違等について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
6		9.13	2	【遠隔】	・印象材，トレー，前処置，クラウ	小峰 太	E-3-4)-(1) ク

				印象採得 (教) pp.25-33	ンの印象方法について説明できる。		ラウンブリッジによる治療
7		9.20	1	【遠隔】 印象採得と咬合採得 (教) pp.27-40	・症例，材料別印象，顎間関係記録の方法論について理解し，説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
8		9.20	2	【遠隔】 プロビジョナルレストレーション (教) pp.40-45	・暫間被覆処置の臨床的意義，装置の種類について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
9		9.27	1	【遠隔】 作業用模型の製作 (教) pp.45-48	・作業用模型の構成，模型材の種類，作業用模型の分類について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
10		9.27	2	【遠隔】 作業用模型製作の実際 咬合器装着とトリミング (教) pp.48-52	・模型製作の各論と歯冠形態の再現について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
11		10.11	1	【遠隔】 ワックスパターン形成 (教) pp.52-54 埋没前準備と埋没 (教) pp.54-57	・ワックスパターン形成の方法論，作業工程，器具操作法について説明できる。 ・ワックスパターンに対する埋没前準備作業，埋没材，埋没操作について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
12		10.11	2	【遠隔】 鋳造，研磨 チタン鋳造冠 (教) pp.55-62	・鋳造機，鋳造操作，使用金属，フラックス，咬合調整等について説明できる。 ・チタン鋳造冠の特徴，製作方法が説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
13		10.18	2	【遠隔】 全部金属冠の試適，調整，装着 (教) pp.62-68	・金属冠の調整方法，装着材料，クラウンの装着方法について説明できる	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
14		10.24	5	【対面】	・平常試験を行い，第1～13回の	小峰 太	E-3-4)-(1) ク

				平常試験① (第4実習室, 第5実習室) *月曜日(10月24日)	講義内容の理解度を確認できる。	本田 順一 平場 晴斗 窪地 慶	ラウンブリッジによる治療
15		10.25	1	【遠隔】 診察と診断 (教) pp.71-76 平常試験①フィードバック	・補綴診療に係る医療面接, プロブレムリスト作成, 治療計画立案について説明できる。 ・平常試験①のフィードバックを聴講し, 講義内容の理解度を確認できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
16		10.25	2	【遠隔】 補綴関連の検査と治療計画を左右する因子, 補綴前処置 (教) pp.76-78 補綴装置の除去方法 (教) pp. 90-92	・各種検査, 評価と診断, 治療計画を左右する諸因子について説明できる。 ・歯冠補綴処置を行う前のインフォームドコンセントおよび他科的処置について説明できる。 ・クラウン, ブリッジ, 支台築造の除去方法を説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
17		11.1	1	【遠隔】 直接法支台築造 (教) pp.80-90	・支台築造の意義, 基本的術式のうち直接法の理論と術式を説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
18		11.1	2	【遠隔】 間接法支台築造 (教) pp.80-90	・鋳造支台築造を中心とする間接法の理論と術式を説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
19		11.8	1	【遠隔】 FGP テクニック, コンポジットレジンクラウン (教) pp.38-40, 200-202	・FGP テクニックの理論と実際について説明できる。 ・コンポジットレジンクラウンによる歯冠補綴について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
20		11.8	2	【遠隔】 ラミネートベニア (教) pp.194-198	・焼成陶材によるラミネートベニア修復について説明できる。	小峰 太	E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
21		11.15	2	【遠隔】	・焼成陶材によるラミネートベニア	小峰 太	E-3-4)-(1) ク

				<p>ラミネートベニア (教) pp.194-198 ポストクラウン, エンドクラウン (教) pp.177-180</p>	<p>修復について説明できる。 ・ポストクラウン, エンドクラウン の臨床的意義, 構造, 適応などにつ いて説明できる。</p>		<p>ラウンブリッ ジによる治療</p>
22		11.21	5	<p>【対面】 平常試験② 第4実習室と第5 実習室において, 第1回から21回ま での遠隔講義の内 容を出題範囲とし て, 筆記試験を実 施する。 平常試験②フィー ドバック ※月曜日(11月21 日)</p>	<p>・平常試験②を行い, 第1~21回 の講義内容の理解度を確認できる。 ・平常試験受験後に解説を聴講し, 講義内容の理解度を確認できる。</p>	<p>小峰 太 本田 順一 平場 晴斗 窪地 慶</p>	<p>E-3-4)-(1) ク ラウンブリッ ジによる治療</p>

